

第3学年1組 音楽科学習指導案

指導者 T1 宮奈 香織

T2 佐々木 朋美

展開場所 音楽室

1 題材名 「日本の音楽に親しもう」

発展教材～モンゴル国の音楽と日本の音楽のちがいを感じ取ろう

2 題材について

本題材は、「日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、郷土の音楽を聴いたり旋律をつくったりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ」ことと、「外国の方との交流を通して、外国の音楽を聴いたり、外国の楽器に触れたり、広い視野をもって生き生きと活動できるようにする」ことをねらいとして進めていく。

児童たちは、今までいろいろな音楽と出会い、聴いたり表現したりしてきた。1年生では、日本のわらべ歌に触れ、友達と関わり合いながら楽しく遊んだ。2年生では、日本のわらべ歌の他に海外の遊び歌にも触れ、日本のものとの違いを感じながら楽しく遊んだ。そこで、この「日本の音楽に親しもう」の学習では、日本の郷土の音楽である神田囃子などのお囃子や、運動会のときに踊った沖縄伝統のエイサーの音楽に合わせて踊ったり、日本の伝統楽器である三味線や箏などに触れたりすることで、自国文化について興味をもち、より身近に感じてもらいたいと考える。

教科書の本題材では、日本の音楽にしか触れていない。しかし、本学級にはモンゴル国やペルー、ブラジル人を親に持つ児童がいる。そこで、日本の音楽だけでなく少し範囲を広げ、モンゴル国の保護者の方をゲストティーチャーとして招き、目の前で舞踊を踊っていただいたり、モンゴル国の伝統楽器である馬頭琴やホーミーを聴かせていただいたりすることで、日本とモンゴル国との共通点や相違点などを感じてもらいたいと考えた。またこの学習を通して、モンゴル国のよさはもちろん、改めて日本のよさにも気付いてもらいたいと考える。

本学級の児童は、25名と比較的少人数である。人と関わることは基本的に好きだが、自分から進んで声をかけにいくことが苦手な児童が多く存在する。7月にベトナムから体験入学の女の子が来たときには、積極的な女の子に対して戸惑ってしまう児童もいた。さらに決まった友達と遊ぶことが多いため、新たに出会った人と関わることも少なく、見方、感じ方が狭くなる傾向にある。このような本学級の児童の実態と、音楽科、そして国際理解教育的な視点から、この学習を通して本部会の研究主題である「心の国際化から、共に生きる社会へー国際性豊かな児童生徒の育成を目指してー」に近づけていきたい。自分から進んで声をかけにいくのが苦手な児童も、面識のある保護者なら進んで関わり合うことができ、生き生きと活動できるのではないかと考える。そして何より、本物に触れ、実際に体験することが児童の心に直接響き、異文化や自国文化への興味関心に繋がると考える。

また今回の学習では、普段音楽の授業を担当している音楽専科にも加わってもらい、交流面だけでなく、音楽面もしっかりと学ばせていきたい。

3 児童の実態（省略）

4 考察

音楽の学習がみんな好きである。今月の歌を歌うときには、リズム打ちしながら楽しく大きな声で歌っている。またリコーダーの演奏や、鑑賞の学習も自分から進んで行っている。雨の日などには、教室でリコー

ダーを吹いている児童も多い。音楽の学習で苦手なことは何かを問いても、「苦手なものはない」と答える児童が多いことから、自信をもって学習に取り組んでいることがわかる。

外国の音楽への興味関心に関しては、どの児童も興味を示していた。新しいことを「知りたい!」「学びたい!」という意欲がある児童たちなので、今まであまり外国に触れることがなかった児童たちにとって外国の音楽は、とても興味深いのだと考える。また、ただ外国の曲を鑑賞するだけでなく、日本の曲との違いを感じたいという児童もいたことから、日本の伝統音楽（お囃子や舞踊）にも事前に体験させておくこととした。そうすることで、外国の伝統音楽（舞踊）との違いを身体で感じるができるようになった。

交流に関しては、自分から積極的に関わることに自信のない児童も多くいた。そこで、本学級の保護者でモンゴル国の方を招くこととした。今まで接したことのある方なので、児童たちも自分から関わるができるようになった。また、児童たちはリコーダーの演奏を好んでいることもあり、外国の楽器にも興味を示していることがわかった。そこで、保護者の知り合いで馬頭琴を弾ける方を招いて、目の前で演奏していただき、何人かに直接触れさせる機会を作ろうと考えた。外国の楽器を目の前で弾いてもらい、自分でも音を出すことができれば、外国の音楽への興味をもっと高まると考えた。

吸収力や学ぶ意欲もあり、物事を素直に受け止め、それを自分なりに表現することを好む本学級の児童たちにモンゴル国人の保護者の方や馬頭琴奏者と交流することで、楽しさを感じ取ってもらいたい。また、外国の音楽や楽器、そして日本の音楽についてもっと興味をもってもらいたい。そしてこの授業がきっかけとなり他の国々にまで視野を広げて、生き生きと活動できる児童になってもらいたいと考えた。

5 研究主題との関連

千葉市教育研究会 国際理解教育・外国語活動部会 研究主題
心の国際化から、共に生きる社会へ
～国際性豊かな児童生徒の育成を目指して～

<視点>

本物に触れ、実際に体験することが児童の心に直接響き、異文化や自国文化への興味関心に繋がるであろう。

音楽科の授業において大切なのは、本物に触れるということだと考える。DVDやCDなど優れた教材はたくさんあるが、やはり一番は生、そして本物の音楽である。演奏している人の表情や、その場の空気感を感じることができるのは生の演奏しかない。また、その音楽に精通した方の音楽に対する考え方や発する言葉は実際に交流してみないと感じ取ることはできない。そこで、今回はモンゴル国の舞踊を国の代表として踊っていた方と、ホーミーや馬頭琴奏者としてモンゴル国では有名な方を招き、本物に触れる授業を展開する。外国のことをあまり知らない3年生の児童たちにとって外国の方と交流することも初めてであり、外国の音楽に触れることも初めての体験である。この交流体験を通して、日本と同じアジア圏であるモンゴル国に興味をもち、日本とは違う異文化で暮らしているモンゴル国人だが、「同じ人間」だと肌で実感することで、本部会の研究主題である「心の国際化から、共に生きる社会へー国際性豊かな児童生徒の育成を目指してー」に繋がっていくのではないかと考える。

6 題材の目標

- 日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、お囃子の音楽を聴いたり、旋律をつくったりして、我が国や郷土に伝わる音楽に親しむ。
- 外国の方と交流したり、外国の音楽を聴いたり、外国の楽器を演奏したりして、広い視野をもって生き生きと活動できるようにする。

7 題材の評価規準

[ア 音楽への関心・意欲・態度]

- お囃子で使われている楽器の音色に興味・関心をもち、郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。
- ゲストティーチャーと積極的に関わり、モンゴル国の音楽について興味・関心をもって聴こうとしている。
- お囃子の旋律に興味・関心をもち、ラ、ド、レの三つの音を使って旋律をつくる学習に進んで取り組もうとしている。

[イ 音楽表現の創意工夫]

- 旋律やフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、ラ、ド、レの三つの音を使って旋律を工夫しようとしている。

[ウ 音楽表現の技能]

- ラ、ド、レの三つの音を組み合わせる簡単な旋律をつくり、リコーダーで演奏している。

[エ 鑑賞の能力]

- お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の特徴などを聴き取り、それらの働きが生み出す曲想を感じ取り、その違いを発表するなどして、郷土の音楽のよさを味わって聴いている。
- 日本の郷土の音楽と、モンゴル国の音楽の違いに着目しながら聴き、日本のよさを感じ取っている。

8 題材の指導計画及び評価計画（6時間扱い）

次	時	○学習内容 ・ 主な学習活動	評価規準<評価方法>
1次		ねらい 郷土と日本各地に伝わるお囃子や音楽の特徴を感じ取りながら関心をもって鑑賞する。 日本の伝統楽器に触れ、日本独特の雰囲気を味わう。	
	1	○お囃子の特徴を感じ取る。 ・それぞれのお囃子でどんな楽器が使われているかを想像する。 ・お囃子の音に合わせて体を動かす。	・お囃子で使われている楽器の音色に興味・関心をもち、郷土に伝わる音楽がもつ曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。(関・意・態) <発言内容、観察、ワークシート>
	2	○郷土に伝わるお囃子や音楽に関心をもって鑑賞する。 ・郷土や日本各地に伝わる音楽について調べる。 ・日本各地に伝わるお囃子や音楽を聴き比べなどして、気付いたことを発表し合う。	・お囃子で使われている楽器の音色やリズム、速度、旋律の生み出す曲想を感じ取り、その違いを発表するなどして、郷土の音楽のよさを味わって聴いている。(鑑賞) <発言内容、ワークシート>

	3	<p>○日本の伝統楽器の奏法を知り、体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統楽器である箏や三味線などの奏法を知り、その音を聴く。 ・実際に音を出し、日本の伝統楽器の音色のよさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統楽器の音色のよさを感じ取りながら、進んで楽器に触れている。(関・意・態) <p><発言内容、観察、ワークシート></p>
2次	ねらい モンゴル国の音楽や楽器の特徴を感じ取りながら積極的に交流し、日本の音楽との違いを身体で感じ取る。		
	4 本 時	<p>○モンゴル国の音楽や楽器の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル国の方と挨拶などで交流する。 ・モンゴル舞踊を踊る。 ・馬頭琴やホーミーを鑑賞する。 ・馬頭琴を体験する。 ・日本の音楽や伝統楽器との違いについて感じ取ったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にゲストティーチャーと交流したり、モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を演奏したりしている。(関・意・態) ・モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を弾いたりする体験を通して、日本の音楽や楽器との違いやそれぞれのよさを感じ取り、それを言葉で表している。(鑑賞) <p><発言内容、観察></p>
3次	ねらい ラ、ド、レの三つの音でお囃子の旋律づくりをする。		
	5	<p>○三つの音でお囃子の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍の流れにのって、ラ、ド、レの三つの音でドレミ遊びをする。 ・ラ、ド、レの三つの音と旋律をつくるリズムを使い、2小節の旋律をつくる。 ・つくった旋律をリコーダーで吹いて確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律やフレーズを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取って、ラ、ド、レの三つの音を使って旋律を工夫し、どのような旋律をつくるかについて自分の思いや意図をもっている。(創意工夫) <演奏聴取>
	6	<p>○つくった旋律を使って、まとまりのある音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった旋律をリレーして、まとまりのある一つの音楽をつくる。 ・和太鼓などのリズム伴奏を加えて、お囃子の音楽を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラ、ド、レの三つの音を組み合わせる簡単な旋律をつくり、リコーダーで演奏している。(技能) <演奏聴取>

9 本時の指導（4／6）

（1）目標

- ・積極的にゲストティーチャーと交流したり、モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を演奏したりしている。（国際理解教育：関心・意欲・態度）
- ・モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を弾いたりする体験を通して、日本の音楽や楽器との違いやそれぞれのよさを感じ取り、それを言葉で表している。（音楽科：鑑賞）

（2）展開（60分授業）

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準<評価方法>
1 今日のリクエスト ・当番の児童がみんなで歌う曲を決める。	○音楽学習への意欲的な雰囲気をつくれるようにする。T 2
2 日本の伝統楽器である箏や三味線を体験してみでの感想を発表する。 <予想される発言> ・箏は弦をはじくだけで日本って感じがした。 ・三味線の優しい音がした。	○発言を黒板に板書し、いつでも振り返ることができるようにする。T 2
3 ゲストティーチャーと対面する。	○民族衣装で登場していただき、学習への意欲づけにつなげる。T 1
4 ゲストティーチャーとモンゴル語で挨拶をする。	○事前に簡単な挨拶は教えておき、スムーズに活動に入れるようにする。T 1 ○ゲストティーチャーの発音をよく聞いて、真似をするよう助言する。T 1
5 ゲストティーチャーの自己紹介を聞き、ゲストティーチャーに質問をする。 <予想される質問> ・モンゴル国はどんなところですか？ ・モンゴル国と日本はどこが違いますか？	○すぐに質問ができるように、事前に子どもたちには考えさせておく。T 1 ○ゲストティーチャーにも質問の内容を事前に伝えておき、資料等を用意してもらおう。（写真など）T 1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> モンゴル国の音楽やでんとう楽器にふれ、日本とのちがいを感じ取ろう。 </div>	
7 モンゴル国の民族衣装を代表の児童が着る。	○モンゴル国の民族衣装を着た感想を述べるよう、伝えておく。T 1
8 モンゴル国の伝統舞踊を鑑賞し、体験する。	○日本のものとの違いを感じながら鑑賞するよう助言する。T 1

<p>9 モンゴル国の伝統楽器、馬頭琴とホーミーの演奏を鑑賞し、気付いたことを発表する。 <予想される発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬頭琴には、馬のしっぽのようなものが本当についていて驚いた。 ・三味線と音色は似ているけど、弾き方が全然違う。 ・一人の人が歌っているのに、二つの音が聴こえた。 <p>10 馬頭琴やホーミーの演奏体験を行い、感想を述べる。 <予想される発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音がとても響いていた。 ・風の音が出せてうれしい。 ・音が出ないかと思っていたけど、簡単に出した。 ・二つの音を同時に出すのは難しくてできない。 ・簡単そうに歌っていたけど、大変な技だと思う。 <p>11 馬頭琴をバックに、モンゴル国の伝統舞踊を踊る。</p> <p>12 学習の感想を述べる。 <予想される発言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モンゴル国の方と交流できて楽しかった。 ・馬頭琴の音が出せてうれしかった。 ・モンゴル舞踊が日本の踊りと違っておもしろかった。 	<p>○ゲストティーチャーを見ながら踊れるよう、広いスペースを確保する。T 1</p> <p>○身体の使い方の違いなどにも着目して体験させる。T 1</p> <p>○馬頭琴と三味線の音色や奏法の違いを感じながら鑑賞するよう助言する。T 2</p> <p>○声の伸びや声の出し方に気を付けながらホーミーは鑑賞するよう伝える。T 2</p> <p>○風の音や、馬の走る音などを表現してみて、楽器に触れた感想や音を聴いての感想、また日本の三味線との違いに気付けるよう、声をかける。 T 1 T 2</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆積極的にゲストティーチャーと交流したり、モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を演奏したりしている。 <発言内容・観察></p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆モンゴル国の音楽を聴いたり、楽器を弾いたりする体験を通して、日本の音楽や楽器との違いやそれぞれのよさを感じ取り、それを言葉で表している。<発言内容・行動></p> </div> <p>○馬頭琴の音色を聴いて、モンゴル国の景色を想像しながら踊るよう伝える。T 1</p> <p>○ゲストティーチャーと交流しての感想や、舞踊を体験したり、馬頭琴やホーミーを鑑賞したりした感想を簡単に口頭で述べさせる。T 1</p>
--	--

